

夏のパリ～パン屋のバカンス



今年の夏は、バカンスに旅立たず、初めてパリで過ごしました。市民が一斉に避暑に出かける夏のパリは、観光客が集まる場所以外は店も閉まり、何となくひっそりして、もぬけの殻になったような感じさえ漂います。

困るのは、パン屋も夏休みを取ってしまうこと。店先には、オレンジ色の紙が張られ、休業期間と、開店している近所のパン屋の住所が書き込まれている。行きつけのパン屋が2軒とも8月いっぱい休むことになったため、おいしいパンを求めて近所を探し歩きました。



パリのパンとお菓子の職人組合によると、パリのパン屋は二つのグループに分かれ、8月に休業が集中しないように調整しています。一方が今年7月に休んだとすれば、来年は8月に休む番です。運悪く、食べ慣れた2軒とも、今年は8月に休むグループに入っていたわけです。

バゲットは、形は同じでも店によって味は千差万別で、だれでもお気に入りのパン屋があります。しかも日持ちがしないので、毎日買わなければなりません。主食を売る店が閉まっていることの不便さを実感した夏でした。

(北海道新聞「どさん子世界から」2009年8月掲載コラムより)